

第58回技能五輪全国大会 予選 「造園」職種 実施要領

次の注意事項及び仕様に従って、指定された区画内に施工図に示す庭園を見栄え良く作庭しなさい。

1 競技時間

標準時間 4時間30分

打切り時間 5時間00分

2 注意事項

- (1) 支給された材料の品名、寸法、数量等が「競技用材料（支給材料）」のとおりであることを確認すること。
- (2) 支給された材料に異常がある場合は、申し出ること。
- (3) 競技開始後は、原則として支給材料の再支給はしない。
- (4) 使用工具等は、各自必要と思われるものを使用してよい。ただし、原則として電源を必要とする電動工具の使用は不可とする。
- (5) あらかじめ印をした用具などは使用を禁止する。
- (6) 競技中は、工具の貸し借りを禁止する。
- (7) 競技中に観客等と話をしたり、指導を受けたと判断されたときは、減点もしくは退場を命ずる事がある。
- (8) 指定された範囲内で、安全に配慮して作業を行うこと。
- (9) 作業時の服装等は、作業に適したものとし、保護帽を着用すること。
なお、保護メガネを必要とする作業においては着用すること。
- (10) 競技中は携帯電話（メール、時計、電卓の使用を含む）の使用を禁ずる。
- (11) 標準時間を超えて作業を行った場合は、超過時間に依じて減点される。
- (12) 競技中は課題と図面以外の参照を禁止とする。
- (12) 課題と図面にメモ書きを入れて持ち込むことを禁止とする。
- (13) 作業が終了したら、競技委員に申し出ること。

3 仕様

3-1 共通事項

寸法が示された場所は寸法に従うこと。寸法が明示されていない箇所はおおむね図面のよう
に仕上げること。

3-2 石積み

積用石材を使用して、図面の箇所に石積みを行う。別紙展開図も参照のこと。

天端は揃えるが、端部は段逃げでよい。

小端積みと野面積みは区別して積むこと。結合部はどちらを優先させてもよい。

野面積みの端部と外枠の間はごろた石1石で調節する。

3-3 石張り・レンガ・小舗石延段、板石敷き

支給材料を使用し、図面のような感じに土ぎめで仕上げる。砂目地とする。

3-4 流れ部分

支給材料を使用し仕上げる。曲線の指定はしないが美しく仕上げること。

砂利敷きは底部にビニールを敷いてから砂利を敷く。ビニール敷きはごろた石の敷設前後ど
ちらでもよい。

3-5 木柵

木柵は指定材料を使用し、詳細図のとおり施工する。

板は1か所当たりビス2本を使用して固定する。

3-6 植栽・草花

樹木は図面のような感じになるよう土ぎめで植栽し、必要と思われる剪定はしてもよい。

シラカシ・低木植栽部分（平面図の ———— 線で囲われた部分）の地形は、GL+300を目処
に自由に形作ってもよい。

また、野面積みで使用した石の残りを、3石まで景石として使用してよい。

3-7 図面斜線部分に草花を植栽する。草花は支給材料の中から自由に選んでよい。

なお、斜線部分全てに植栽する必要は無い。

3-8 芝の植付け

図面指定部分に、目地なし、目土なしで施工する。

3-9 地均し・整地

土が不足した場合は区画外より入れる。また土が余った場合は、区画内で処理すること。

3-10 片付け

道具を整理し、ゴミをまとめておくこと。

4 支給材料（1組分）

品 名		寸法又は規格 (mm)	数 量	備 考
石積用石材（野面積み用）		φ100～300 内外	所要量	木曽石
石積用石材（小端積み用）		100～400 内外	所要量	和良石または気良石
延 段 等	石張り用石材	300×600×25内外	1 枚	御影石・加工用
	板石	300×450×70内外	3 枚	
	コンクリート平板	300×600×60	1 枚	
	飛石	300～350 内外	1 枚	
	小舗石（ピンコロ石）	90× 90× 90	1 6 個	
	レンガ	210× 100× 60	6 個	
	縁石ブロック	100× 100× 600	2 本	
	目地用砂	洗砂	所要量	
流 れ	ゴロタ石	100～200程度	2 5 個	
	砂利	25程度	所要量	
	池底用ビニール		所要量	肥料袋で代用
木 柵	木柵用木材	75×14×4000（ヌキ板）	1. 5 本	
	木柵用木材（柱）	60×60×3000	1 本	
	木柵柱固定用L型金具	60×90×3.2	2 個	
	ビス	32mm	3 0 本	
植 栽	モミジ	H 1500	1 本	
	シラカシ	H 1500	1 本	
	低木 サツキ	H 300	3 本	
	低木 ヒイラギナンテン	H 500	1 本	
	下草（地被・草花）		3 5 pot	
	コウライシバ		1 束	

5 持参工具

- (1) 必要と思われる工具は持参しても良いが、手作業で行うことを原則とするため電源（発電機も含む）を必要とする電動工具や油圧を使う工具については使用できない。
ただし木柵施工のビス止め等に使用する充電式インパクトドリルについては持参可とする。
- (2) 工具の大きさについては特に指定はないが、通常使用している標準的な工具とする。
- (3) 充電式ドリルの刃を交換してサンダーのように使用することはできない。

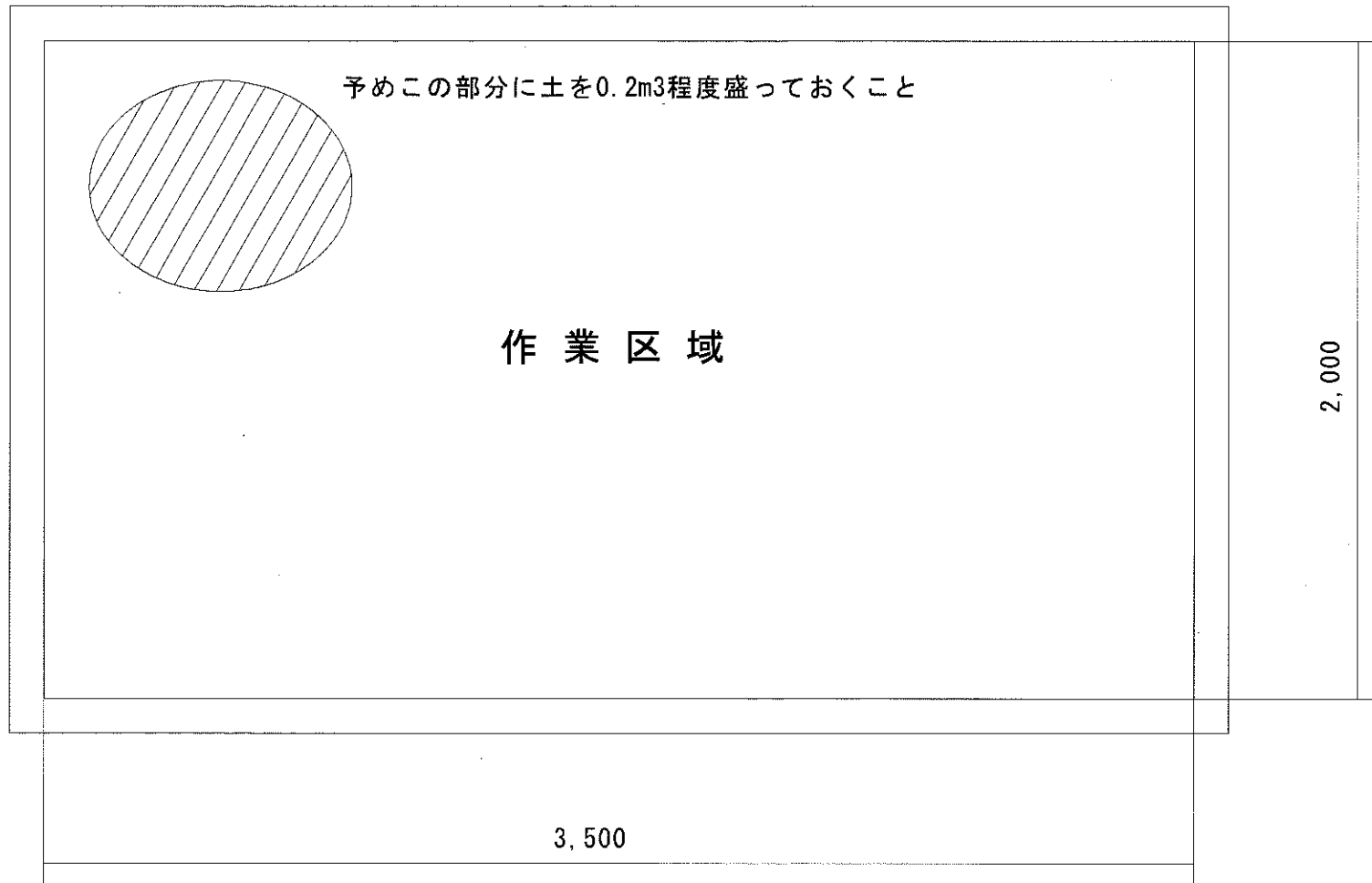
6 その他の注意事項

- (1) ベニヤ板を1枚支給するので自由に使用して良い。
- (2) 材料については都合により直前に変更することがある。
- (3) 競技終了後、課題の解体撤去作業を行う。

7. 採点項目及び配点

採 点 項 目		配 点
作 品 採 点	客観評価	30点
	出来栄え	50点
作業時間採点	(経過時間に応じて減点)	10点
作業態度採点		10点
	工具の取り扱い	
	安全作業	
	仕様書・図面の理解	
	作業手順	
	作業現場の清潔さ	

作業区域は木枠を設け明示する
木枠は水平に設置し 周囲から50mm程度上げること

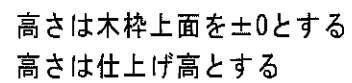


木枠

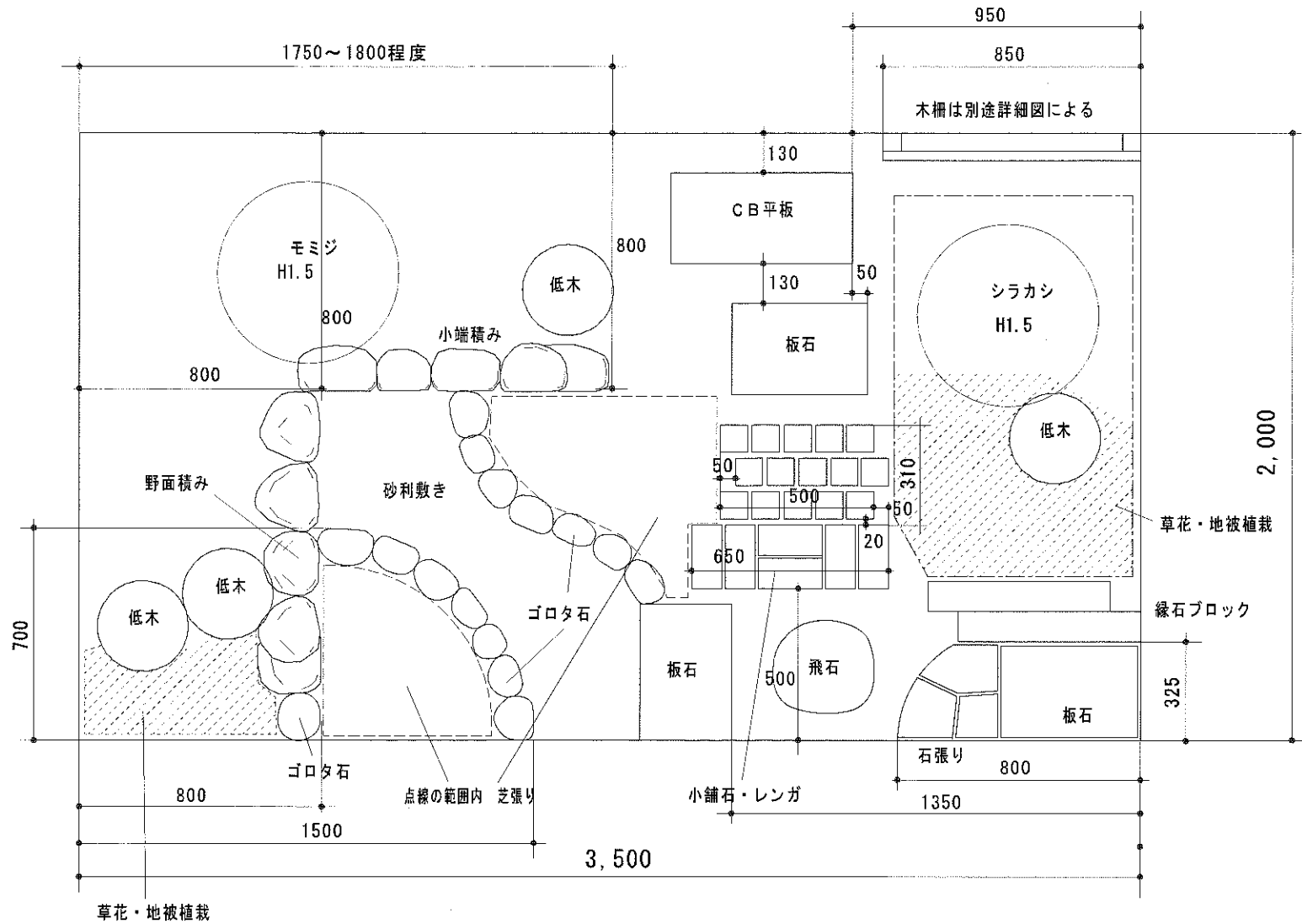
枠上面一杯まで土を入れること

木枠

1/20

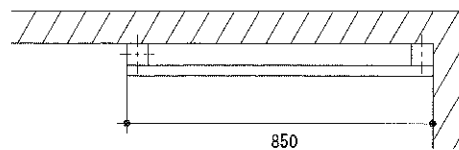
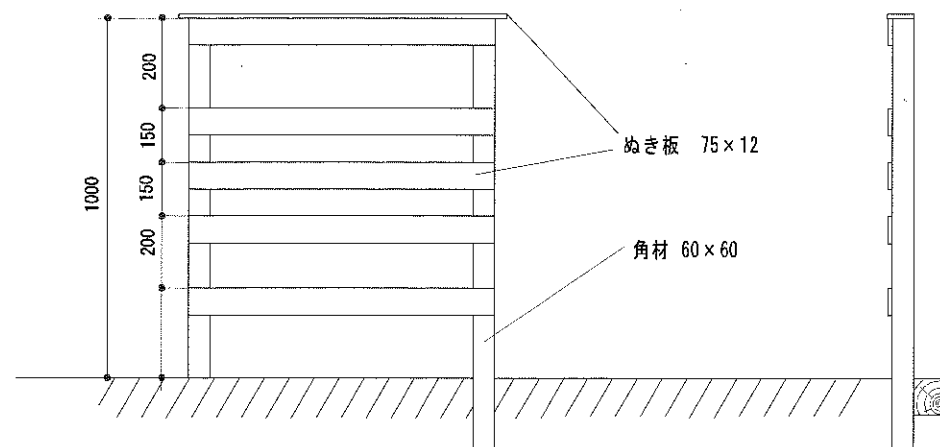


平面図 1/20 (地割図)



木柵部詳細図

1/20



柱はL金具・木ネジで木枠に固定すること
木柵の板は柱に木ネジ止めとする
(1箇所につき2本使用)

石積展開図

1:20

野面積み

小端積み

